

ご自由にお持ち帰りください

さくらだより



さくら病院

SAKURA

日本医療機能評価機構認定



さくら病院の理念

健・康・通・信

愛の心と確かな医療技術を以って社会に奉仕する。

Vol. **43**



さくら病院
在宅医療センター 所長

井上 富士子

平成12年に介護保険制度が施行されてから12年が経ち、今年度、診療報酬・介護報酬の同時改定が行なわれました。“医療と介護の連携強化”がキーワードです。

在宅医療介護センターには、ケアプランセンターさくら、訪問看護ステーションさくら、ヘルパーステーションさくらが、介護保険事業所としてさくら病院に併設されています。さくら病院裏のピンクの建物です。ケアプランセンターさくらは、主任介護支援専門員2名を中心として、医療・介護・福祉とのネットワーク作りに積極的に関わっています。訪問看護ステーションさくらは、24時間対応体制で、さくら病院だけでなくクリニックの先生方の治療方針にそって、利用者様が望む在宅医療・生活を支援しています。ヘルパーステーションさくらは、掃除や調理等利用者様の一番近いところでの生活を支えています。

在院日数の短縮化等医療費を抑え、患者様にとっては高い医療費を払う国の政策により、在宅酸素、人工呼吸器及び点滴等医療度が高く急性期に近い状態でも自宅療養される方が、多くなっています。急変時は、さくら病院が後方病院として対応しますので、利用者様は安心して在宅療養をすることができます。

病診連携を充実させ、在宅から病院へ、病院から在宅へと切れ目のないサービスを提供し、『地域の方に安心と笑顔を』届けていきたいと日々研鑽しています。

安心した地域での生活をお支える為に、身近にある総合相談センターとして、さくら病院在宅医療介護センターを利用していただきたいと思っています。御気軽にいつでも御相談下さい。

医師 楠元 和歌子



新任ごあいさつ

はじめまして。10月よりさくら病院に勤務させていただいています楠元和歌子と申します。福岡県出身で、福岡大学医学部を卒業後、福岡大学病院で2年間の臨床研修を経て、平成23年福岡大学筑紫病院消化器内科に入局しました。これまでは、町立芦屋中央病院や福岡大学筑紫病院で勤務しておりました。

当院では、週1回の外来診療や訪問診療、入院患者さんの診療、また上下部消化管内視鏡検査や腹部超音波検査、消化管造影検査等の消化管検査を担当させていただいています。さくら病院は、通常の外来診療や入院診療以外にも、緩和ケアや訪問診療等の医療にも携わっており、医師として少しでも地域の方々のお役に立てればと考えております。

スタッフと協力し、患者さんにとってより良い医療が行えるよう努力して参りたいと思っております。まだ不慣れな点も多く、皆様にはご迷惑をおかけするとは思いますが、ご指導を含めどうぞ宜しくお願い致します。

さくら病院 ACLSチーム (二次救命処置) 活動報告



人が倒れています。呼びかけても返事がありません。さあ、どうしましょう。その人を救うのは発見した『あなた』です。そのまま見過ごしますか？助けなければ…と思うはず。ACLSチームでは心肺停止した人を発見してから蘇生するまでの救急処置を重点に研修を行っています。この研修は看護師だけでなく、事務職員や他職種（PT・OT・栄養士・ワーカー・その他）の職員全員を対象としているため、1年間をとおして数回に分けて実施しています。看護師は実際の現場での救急処置、挿管や徐細動器の使用法などをかなり専門的に研修しますが、看護師以外の職種については院外での場面を想定してAED（自動体外式除細動器）の使用法を中心に行います。意識が無い人を見つけたら、まず人を呼びましょう。一人では何もできま

せん。『あなた』は呼吸や循環が停止しているのを確認したら、すぐに心臓マッサージ（胸骨圧迫）を開始します。この胸骨圧迫が有効に行われていれば、その命が助かる率がかなり上昇します。応援の人がきたら、『あなた』がリーダーとなっていような指示をしましょう。『あなた』は誰にでもなりえます。ACLSチームでは発見者の『あなた』がまず心臓マッサージ（胸骨圧迫）をしながら応援を呼び、駆けつけた人々に指示を出し、応援に駆けつけた人と一緒にチームとなって救急蘇生を行うことができるようになることを目的として活動しています。さくら病院の職員である『あなた』なら救えるはず…そういう研修となることをめざしています。

ACLSチーム 楠田 美穂

狭心症と心筋梗塞

循環器内科医師 秋満 俊介



どんな病気？

心臓は心筋という特殊な筋肉が収縮・拡張することによって全身に血液を送るポンプの働きをしています。この心筋にも十分な血液が必要で、冠動脈という動脈が心筋に血液を送っています。この冠動脈内の血流が少なくなると狭心症に、また途絶えると心筋梗塞になります。その原因は高血圧症、高コレステロール血症、糖尿病、喫煙などによる動脈硬化が大きく関わっています。



どんな症状？

ほとんどの場合胸の中央から左側にかけて痛み(胸痛)があります。よく締め付けられるような、圧迫されたような、重たい感じなどといった表現をされます。胸痛は突然始まり、狭心症の場合は数十秒から数分間程度ですが、心筋梗塞は痛みの程度が強く、時間も長い傾向にあり30分以上続くときもあります。ただし高齢者、糖尿病、女性のなかには胸痛をあまり感じない場合もあり、注意が必要です。また、胸痛は運動中などの労作時に起こることが典型的ですが、必ずしもそうでないこともあり、安静時や睡眠中にも発症することがあります。



診断方法は？

問診で狭心症の可能性があれば心電図、運動負荷心電図、24時間心電図などを行います。心筋梗塞の場合は心電図でほぼ診断できますが、採血により心筋から放出される酵素が上昇するためこれも診断の決め手となります。また心臓超音波検査も行うことがあります。

最終的には実際に冠動脈を造影して狭窄(細くなっている)部位や閉塞部位を確認します。これにはカテーテルという細い管を手や足の動脈から入れて行います(心臓カテーテル検査)。最近はCTで冠動脈がかなりわかるようになりました。



治療は？

狭心症はまず血管拡張薬などによる薬物療法が行われます。有名なニトログリセリンがこれに当たります。また、前に述べたような動脈硬化の原因となる疾患には、それらの治療も重要です。薬でも症状のコントロールがつかない場合は、バルーン(風船)カテーテルやステントという金属の網を留置して血管拡張する冠動脈形成術(PCI)や、冠動脈バイパス術(心臓外科による手術)になることもあります。

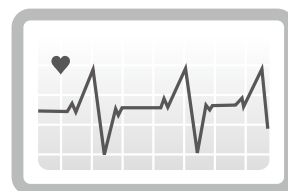
また心筋梗塞は不整脈や心不全を合併することがあり、緊急にCCU(冠疾患集中治療室)に入院し、一刻も早く閉塞した冠動脈の再疎通を図る必要があります。方法は狭心症と同様で、カテーテルによる冠動脈造影と形成術を行います。治療が遅れると致命的となることもあります。状態をみながらリハビリを進めていき、再度冠動脈造影で確認後に退院となります。

冠動脈形成術を受けた場合、再び狭窄を来すことがあり、半年後などに確認造影をすることが多いです。また、血液が固まりにくくなる薬(抗血小板薬)を継続して内服します。



最後に

狭心症は進行すると心筋梗塞となることがあり、胸痛の程度、頻度、持続時間などがその目安となります。担当医に具体的に症状について話していただくことが大変参考になります。また、心筋梗塞は突然発症するため、今までに経験したことのないような胸痛を自覚した場合、すぐに救急車を呼んで病院を受診してください。



さくら病院の薬局です! ご紹介

現在、薬剤師5名、事務員1名、調剤助手1名の計7名が患者様に安心・安全なお薬を提供するために日々努めております。

薬局の仕事は、調剤・製剤、注射薬混合調製、医薬品の購入・供給・在庫管理、医薬品情報収集・提供、薬剤管理指導業務などがあります。

調剤とは医師の処方に基づいて内服薬・外用薬・注射薬を調整することです。

常に薬の専門家としての立場でチェックし、疑問があれば必ず照会・確認しています。処方された薬の飲み方や量、飲み合わせの悪い薬などのチェックを行った後に調剤をします。注射薬については内服薬よりも効果が高いため安全で適切に使用することが重要です。患者様別に個人セットし、注射薬の適正な使用に貢献しています。

製剤は市販されていない医薬品を、院内で作ることです。また、クリーンベンチ内で、無菌的に高カロリー輸液の混合調製を行っています。

医薬品の購入・供給・在庫管理は、院内で使用する医

薬品の必要量を確保し、在庫を適切な方法で保管、管理する重要な仕事です。

医薬品情報については、医薬品に関する情報を収集し、院内の各部署に情報を提供し、また、月1回 医薬品集の改訂を行っています。

薬剤管理指導業務では、入院患者様に薬の情報を提供したり、処方された薬が患者様に合ったものかどうか、飲み合わせは問題ないかなどを確認し、副作用の防止・早期発見に努めています。お薬のことで、何かお困りのことがございましたら、お気軽に声をお掛け下さい。

最後に、薬学生の臨床実習の受け入れをしており、将来薬剤師となる学生に指導を行っています。薬学部が6年生となり、2.5ヶ月の病院実習が必須となりました。実際に役立つ知識、技能、態度を現場で教育するため、入院中の患者様のもとに指導薬剤師とともに学生が伺うことがあると思います。教育の一環として患者様にご協力頂ければと思っておりますので、宜しくお願いします。



救急車 同乗研修

福岡市救急病院協会事業の一環として、会員病院に向けての研修事業があります。心電図、防災、心肺蘇生、ICLS、救急車同乗研修などです。皆さん、積極的に参加し知識技術の向上に努めましょう。今年度は救急車同乗研修に9名の方が参加されました。参加者、末森美妃さんより感想を述べて頂きました。

～救急車同乗研修に参加して～

今回の研修は初めてで、現場到着から病院搬送の実際を学ぶことができました。救急隊は現場到着してすぐに患者の状態確認をしながら搬送病院への連絡、モニタリングなど迅速な動きと判断力と隊員のチームワークが必要だと感じました。また、病院受け入れもスムーズでないと現場から動くことが出来ないで今後の救急電話対応にも気を遣っていきたくて思いました。福岡市には27台しか救急車がないそうです。「たらいまわし」の現状はなく、救急要請の約半分くらいは中等症以上の方、あとの半分は軽症の方でタクシーのように要請する方も多いということです。そのような要請で救急車が不在の時は他部署に応援依頼をしなくてはならず、本当に緊急を要する方のいるところまで行くのに時間がかかり困る現状を知ることができました。

また、救急隊の処置には制限があり、資格者が挿管やルート確保を行なうのはCPA(心肺停止)の患者にしか出来ないこと等を知ることができました。

今回の研修を通して、地域に密着した病院であるさくら病院にも救急車を受け入れることは多々あるので現場から病院への搬送がスムーズに行われるようにしていきたいと思えます。福岡市の救急要請の傾向や救急隊の思いも聞けたのでとても充実した研修となりました。今後も救急医療に携わる者として地域や病院に貢献できるよう頑張ります。

連携医療機関のご紹介

こんにちは。中央区谷1丁目で開業しております「とよしまファミリークリニック」の豊島です。私のクリニックは内科、老年内科、老年精神科を標榜しています。実際には地域の患者さん、こどもから高齢の方までの「かかりつけ医」、なんでも相談してもらえる「町医者」を目標にして診察にあたっています。皆さんはどんな医者にみてもらいたいですか？私の父親は15年前に病院に入院して亡くなりました。亡くなる前には寝たきりの状態になっており、自宅で見てもらえないかと、ある医者に相談に行きました。ところが、その医者は相談に行った私の家族の話を聞いただけで診察もせず、自宅で世話をするのは非常識だと叱って、私の家族を返したのです。当時、大学病院に勤めており膠原病の患者さんの診療と研修医の指導係をしていた私からしても、どこが非常識なのか理解に苦しむ対応でした。自分の家族も満足に守れない医者では何をしているのかとしばらく悩みました。その頃、外国には「病氣」の専門家ではなく「病人」を専門として家族単位で患者さんを見る「家庭医」という専門医制度があることを知りました。これこそ自分が目指す医者だと思い、米国に渡り約6年間、米国で「家庭医」そして「老年医療専門医」としてアメリカ本土、ハワイで患者さんの診療にあたりながら勉強してきました。私にとっては米国での医者修行は、頭をガツンとぶんなぐられるような経験でしたが、非常に充実した時間となりました。

その後、日本にもどり、いくつかの病院での診療経験をした後、平成17年から六本松地区でクリニックを開いています。クリニックの患者さんはこども達、そのご両親、そしておじいさん、おばあさんまで御一家で通院される方、近隣の独り暮らしの若い方やご高齢の方など様々です。来られる患者さんが少しでもほっと安心して穏やかな気持ちで帰って

とよしまファミリークリニック

豊島 元 先生 〒810-0031 福岡市中央区谷1丁目9-22
TEL:092(771)8858 FAX:092(771)8877

もらうことができるように、気になっておられるどんなことでも相談いただき、私のクリニックでできることはできるだけ対応するようにし、必要に応じて専門の医療機関、総合病院に紹介させていただいています。午前中は外来で診療にあたり、午後は患者さんのご自宅を訪問、夕方から再び外来で患者さんを診せてもらうという毎日です。

一人で診療にあたる小さなクリニックですので、周囲の医療機関、病院に検査や治療をお願いすることもあります。そのなかでも、さくら病院の先生、スタッフの方々には、当クリニックの開院のときから助けていただいております。江頭院長先生には、私が研修医のころ当直に行っていた病院でお世話になっておりました時からの御縁です。今でも、どうしようかと対応に悩む患者さんの入院診療などをお願いし、院長先生に直接相談にのっていただくこともあり、助けられております。訪問診療を続けることが家族の事情で困難になった患者さんの場合、一人暮らしの方が急に具合が悪くなったときなど、いつも迅速に対応いただいております。11月からはさくら病院の連携在宅支援診療所のひとつとさせていただくこととなりました。今後一層お世話になることが増えるかと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



秋の通所リハビリテーションバスハイク

福岡市美術館に行ってきました。

当院の通所リハビリでは、春と秋に院外行事としてバスハイクを行なっています。今回は、芸術の秋ということで、大濠公園のほとりにある福岡市美術館に行って参りました。

生まれて初めて美術館に行ったという方、一つの作品を穴のあくほど鑑賞される方、以前美術館によく行かれていて好みの展示室に直行される方など思い思いに楽しんでおられたようです。日本人の画家青木繁、ダリ、アンティ・ウオーホルなど超一流の有名な絵画や彫刻や仏像を鑑賞しながら、ご利用者もスタッフも非日常的なひとときを過ごしました。

そして美術鑑賞の後は、大濠公園の池が見えるカフェでお茶をしました。太陽の光が反射してキラキラ光る池を見ながら食べるケーキやコーヒーの味はいつもより美味しく感じたのではないのでしょうか。

バスハイクは毎回新企画

通所リハビリのバスハイクでは、この5年間は毎回新たに行く場所を企画して、たくさんのご利用者に参加していただいています。これまでにに行った場所は、「櫛田神社と博多町家ふるさ



と館」「キャナルシティ」「福岡タワー」「油山モーモールランド」「木の葉モール」「福太郎めんたい工場」「九州国立博物館」「アサヒビール工場」などで、毎回ご好評いただいております。

バスハイクは年2回ですが、なるべく多くのご利用者に参加していただけるように、バスハイクの期間は月曜日または火曜日から始まり、土曜日まで毎日行くようにしています。

腰や膝が痛くて長歩きができない方、車いすの方、トイレが気になる方でも、安心して楽しめるようにスタッフ一同準備しております。

当院通所リハビリではバスハイクのほかに、ご利用者に楽しんでいただけるように夏祭りやクリスマス会など季節ごとの行事や様々なレクリエーションを行なっております。もちろん、リハビリもしっかり行なっておりますので、ご興味のある方はぜひご連絡ください。無料体験も随時受け付けております。

こんにちは!

医療連携相談室です。 どうぞお気軽にご相談ください。

医療連携相談室では、患者様・ご家族からの様々なご相談を承っています。

例えば、当院への入院のご相談・退院後の生活に対する不安・介護サービス等社会資源のご紹介・経済的な問題についてなど、一緒に考えさせていただいています。

また、患者様へ適切な医療が提供できるよう、地域の診療所や病院・施設・在宅サービス事業所等との連携に努めています。

どうぞお気軽にお声かけください。

医療連携相談室

TEL 092-801-7386 (事務課)

FAX 092-864-1213 (直通)

担当者 医療連携相談室長

楠原 浩之

医療ソーシャルワーカー

小川 美和・松山 章子・山内 めぐみ



相談受付 平 日:午前9:00~午後5:00

土曜日:午前9:00~午後12:30

外 来 診 察 表

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	第1診察室	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科
	第2診察室	楠原 内科/消化器科(肝臓)	王寺 内科/胃腸科	秋満 内科/循環器	西本 内科/胃腸科	王寺 内科/胃腸科	楠原 内科/消化器科(肝臓)
	第3診察室	楠元 内科	村上 内科/心臓内科	天野 内科/胃腸科	天野 内科/胃腸科	古屋 内科/消化器科	井手 内科/糖尿病外科
	第5診察室		熊谷 循環器内科	岩崎 リハビリ・整形外科			
午後	第1診察室	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	王寺 内科/胃腸科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	
	第2診察室	秋満 内科/循環器	西本 内科/胃腸科	白橋 内科/血液・腫瘍	楠原 内科/緩和ケア	秋満 内科/循環器	
	第3診察室	村上 内科/心臓内科	知念 内科/胃腸科	佐々木(靖) 循環器(隔週)	早田 内科消化器科(肝臓)	知念 内科/胃腸科	
	第5診察室	古屋 内科/消化器科					
専門外来(予約制)	午前				渡辺 呼吸器内科外来	岡崎 放射線科外来	
	午後			白橋 佐々木(靖) 血液・腫瘍外来 循環器外来	楠原 早田 緩和ケア外来 肝臓外来	安部 脳神経外科	

病院までの交通アクセス

- 地下鉄七隈線
(福大前下車、1番出口より徒歩10分)
- バス(西鉄バス西片江1丁目バス停下車)
西鉄バス系統番号
(天神方面より) 12,13,14,61,114,140番
(西新・飯倉方面より) 95番
(博多駅方面より) 12,13,16,18,64,114,140番
(松原・片江方面より) 6,12,13,14,16,18,61,64,95番
- 車(病院裏手に専用駐車場があります)
天神より約30分・堤ICより約5分



医療法人社団 江頭会 さくら病院
在宅医療介護センターさくら

社会福祉法人 桜花会
ライフケア大手門

社会福祉法人 桜花会
特別養護老人ホーム ライフケアしかた

高齢者安心ハウス
あっとほーむ片江

〒814-0142 福岡市城南区片江4丁目16-15

TEL092-864-1212 FAX092-865-4570 E-mail:info@sakurahp.or.jp

ホームページ: <http://www.sakurahp.or.jp/> (11月ホームページを更新いたしました)

直通TEL

1内科 092-872-5611
2内科 092-872-5612
3内科 092-872-5613
事務所 092-801-7386
ユニット 092-872-5615